言語聴覚学科専門

授業科目　高次脳機能障害学演習

【担当教員名】	対象学年	3	対象学科	言語
今村　徹	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	各１計２	時間数	計 45

【ディプロマポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎		○

【概要・一般目標：GIO】

ヒトの脳は一次的な運動・感覚機能だけではなく，日常生活や社会生活をおくるために必要な記憶，注意，計算，思考，判断，学習などの機能を担っている．これらを認知機能（または高次機能）と総称する．本科目では成人の認知機能障害の診断と評価を学ぶ．現在の臨床現場では，急性期，慢性期を問わず驚くほど多数の患者が，さまざまな認知機能障害を診断・評価されないまま，不十分な治療・看護・介護・療養環境に甘んじている．認知機能障害を診断・評価できる人材のニーズは大きく，言語聴覚士も認知機能障害全般のコンサルテーションを受ける専門職（神経心理士）としての役割を求められる．本科目はそのような臨床現場のニーズに応えるための入門講座である．

授業時間の１/３は担当教員の講義，２/３は学生のゼミ形式の発表である．受講する全学生を２～３名ごとの小グループとし，各グループは与えられた課題についての配布資料を作成し，30 分程度の発表を行なう．配布資料と発表内容についてはあらかじめ担当教員の評価を受ける．

【学習目標・行動目標：SBO】

１．代表的な認知機能障害の症候学とその機序を理解する．
２．患者の認知機能障害を診察して症候群として把握できる．
３．把握した認知機能障害を適切な検査・テストで描出できる．
４．患者の認知機能障害に関する情報をまとめ，提示することができる．

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	（Ａ）学習の主題 ・以下の主題をとりあげる どの主題においても診察→検査→解釈という認知機能障害の評価の流れを重視する． 神経心理学の方法論 健忘症候群 前頭葉症候群と遂行機能障害 右半球症候群 失語・失行・失認 （Ｂ）学習方法 各主題について以下の形式のいずれか，または両方の形式の授業を組み合わせて行う １）学生の小グループによる課題発表（ゼミ形式）：計 15 回 ２）教員による講義：合計８回		担当教員：今村　徹

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	神経心理学入門	山鳥重	医学書院	1985・6,400 円＋税
参考書	脳損傷の理解：神経心理学的アプローチ	鈴木匡子訳	MEDSI	1993・5,800 円＋税
	脳からみた心	山鳥重	日本放送出版協会	1985・970 円＋税
	事例で見る神経心理学的リハビリテーション	鎌倉ら訳	三輪書店	2003・5,600 円＋税
	高次脳機能障害学	石合純夫	医歯薬出版	2003・4,200 円＋税
その他の資料				

【評価方法】

小グループで行なう発表についての担当教員の評価が合格であった学生に，教員の担当する講義の内容も含むレポートを課す．提出されたレポートの評価点を最終の成績評価とする．

【履修上の留意点】

教員による講義部分が『高次脳機能障害学』，学生の小グループによる課題発表部分が『高次脳機能障害学演習』に該当する．具体的なスケジュールは別途通知する．